



城南中だより

第 2 号
令和 8 年 4 月 3 0 日 発行

学校教育目標

希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

これからの学習活動について

校長 吉原 誠 士

本校では「単元内自由進度学習」と呼ばれる活動に取り組もうとしています。これは、個々の子どもたちの個性や違い（学習を進めるスピード、習熟の度合いなど）に応じようという授業方法です。授業の中で、個々の生徒が自分の状態に合わせて進める学習時間を設けるのです。そこでは、学習内容と同時に、自分に合った学習方法を探り、見つけることも求められます。現代はこれまで以上に変化が激しい時代となり、常に学び続けることが求められています。社会人になった時に備えて、今から学びのあり方を鍛えようという意図があるのです。

ところで、ここに含まれる「自由」という言葉は教員の管理下にある「自由」を意味しています。『自由』の英訳には『liberty』と『freedom』があり、意味に微妙な違いがある」と聞いたことがある大人も多いことでしょう。どちらにせよ「何物の拘束も受けない」というニュアンスを感じ取り、この言葉の響きに魅かれる人は多いようです。そのためこの授業方法について誤解し、「学校はものを教えるのをやめるのか」という批判を受けたこともあります。確かに生徒を放任、野放しにするような授業はいけません。私は「自由」には必ず「管理」が伴う、「管理」なき自由は「勝手し放題」であると解釈しています。当然、これまで同様にルールを定めて教育活動にあたります。

本校生徒の学習に関わる課題には「基礎学力の定着」もあります。昨年度から行っている中間・期末テスト後の「やり直しテスト」も対策の一つです。授業時間数との兼ね合いを考えながら、ほぼ同じテスト問題に再度取り組む時間を設けています。正解をもう一度確認し直したり、ミスした部分を再検討したりすることで知識の定着度を高めるのです。脳の記憶容量の増加を期待できるので、模範解答の丸暗記でも構わない、としています。「やり直しテスト」に立ち向かうことそのものが学習意欲の喚起につながるとも考えています。

「単元内自由進度学習」にあたる教員は、従来の授業の数時間分を一気に進むハイスピードの生徒にも、納得いくまでゆっくり進みたい子どもにも備えなければなりません。次の時間だけでなく、学習単元丸ごとの教材準備も必要になります。子ども同士で教え合う場面も生まれるので、授業中は常に教室全体に耳をそばだてなければなりません。また、生徒も自分で学びを深めるためには宿題として家庭でやらなければならないことが増えますから、帰宅後の学習の充実も欠かせなくなります。保護者の皆さまだけでなく、チャレンジスクールをはじめ本校生徒に関わる地域の方々にはこれまで以上にご協力をお願いします。「創造」と「進化」を目指す城南中学校を応援ください。